

領域「人間関係」の指導法についての検討

—他の保育内容の領域との違いを中心に—

会津大学短期大学部

幼児教育学科

渡辺 一弘

領域「人間関係」の指導についての検討

—保育者養成校において、他の保育内容の領域との違いを中心に—

渡辺 一弘

平成29年1月6日受付

【要旨】本稿は、保育士養成課程の改正後の、短期大学等における保育内容科目の領域「人間関係」の指導法について、大分県の保育者養成校の事例を対象として、他の「健康」「環境」「言葉」「表現」の各領域との違いも踏まえて、具体的なテキストの内容や担当者の専門性、シラバス、実際の授業方法、教材等を検討した。検討の結果、主に以下の3点が明らかになった。

1. 領域「人間関係」の開講時期（1年次か2年次か、前期か後期か）や長さ（半期か通年か）は、各養成校によって異なるが、その授業概要や計画の方向性としては、大きな違いはなく、どの学校も実践を意識したものである。
2. 領域「人間関係」の担当者の専門性は、先行研究の全国調査の結果とは異なり、心理学を専門とする者は皆無で、元幼稚園教諭、元保育士、福祉・保育系教員、幼児教育学系教員と、各養成校によって違いが見られる。
3. 領域「人間関係」の授業において、テキストを使用している学校は、すべて【現場型】の実践的なものを使用していて、その授業内容も現場に即した実践的なものである。

1. 問題の所在

本稿は、保育者養成校における保育内容科目の領域「人間関係」の指導法について、他の「健康」「環境」「言葉」「表現」の各領域との違いを踏まえて、具体的なテキストの内容やシラバス等を検討し、その現状を把握し、それらの特徴や改善点等を考察することを目的とする。

保育者養成校において、「人間関係」という科目は、他の4つの領域の科目と同様に、通常、保育士資格と幼稚園教諭二種免許の取得に際し、必修となる「保育の内容・方法に関する科目」（保育士資格）、「教育課程及び指導法に関する科目」（幼稚園教諭二種免許）として演習科目に位置づけられる。

保育内容科目の指導については、2010（平成22）年3月に発表された「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）」¹⁾（以下、「中間まとめ」と略記）において検討された。これらについては、拙稿²⁾でも示したが、改めて以下に提示しておく。「中間まとめ」自体は、2008（平成21）年11月に発足した「保育士養成課程等検討委員会」による計6回にわたる審議の結果をまとめたものであり、保育士養成課程の改正について、保育士養成の現状、保育現場の状況を踏まえて、改正内容として、以下の6点を示している。

①教科目の配列、②教科目の新設、③教科目の名称の変更等、④教科目の移行、⑤単位数の変更、⑥保育実習Ⅰにおける実習受け入れ施設の範囲や要件の見直し

保育内容については、④教科目の移行において、以下の様に説明してある。

- ・「保育内容」を、「保育内容総論」と「保育内容演習」に分ける。
保育内容の全体的な構造や総体を理解した上で、養護と教育にかかわる領域等について学ぶことが必要であるため、総論と内容演習の教科目を設定する。

つまり、「保育内容」を分割し、「総論」と「演習」の違いを明確にし、「総論」を理解した上で、それぞれの領域内容の「演習」、例えば「保育内容 健康」「保育内容 人間関係」等を履修するように指摘した。

この「中間まとめ」では、「教科目の教授内容の改正案」も示されており、「保育内容演習」（5単位）の具体的な改正案での、目標、内容については、以下の様に示してある。なお、この5単位は、5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）の各領域の合計の単位数である。

〈目標〉

1. 養護と教育にかかわる保育の内容が、それぞれに関連性を持ち、総合的に保育を展開していくための知識、技術、判断力を習得する。
2. 子どもの発達を「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域の視点から捉え、子ども理解を深めながら保育内容について具体的に学ぶ。

〈内容〉

以下の観点から、総合的に保育内容を理解する。

1. 子どもの生命の保持及び情緒の安定を図るために保育士等が行う援助やかかわりである「養護」
 - ①子どもの生理的欲求を満たし、子どもが健康、安全、かつ快適に過ごすための生活援助
 - ②子どもを受容し、子どもが安心感と安定感をもって過ごすための援助やかかわり
2. 子どもが健やかに成長し、その活動がより豊かに展開されるための発達の援助である「教育（健康、人間関係、環境、言葉及び表現の5領域）」
 - ①健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う「健康」の領域。
 - ②他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う「人間関係」の領域。

- ③周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う「環境」の領域。
- ④経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う「言葉」の領域。
- ⑤感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊にする「表現」の領域。

このような保育士養成課程の改正の状況を踏まえて、「保育内容」各領域の授業や指導法に関する研究、各領域自体の内容に言及する研究等も、だんだん見られるようになってきた。「人間関係」の領域については、例えば、赤堀(2007)は、領域「人間関係」の指導法として、ロールプレイの有効性を検討し、授業の可能性についての理論的枠組みを提示し、対面する他者や自分自身を理解しながら、どのような行動が可能であるのかを考えていくことができる、という意味においては有効であることを明らかにした。横山(2008)は、幼稚園教育要領の領域「人間関係」の内容を中心に、人間関係を育むことの意義と保育者の役割について、主に以下の2つの点を確認した。①子ども発達にとっての「人間関係」の意義は、コミュニケーション能力の発達、ルールを理解する能力、自己主張と我慢する能力、遊びの創造等の4つの事が、人と関わることで実現されていく。②人との関わりを育てる保育者の役割は、子どものその後生活や意識に大きな影響を与え、保育者自身の関わり方のスキルアップが常に要求される。中野(2009)は、「人間関係」領域の内容項目が、ノディングスのいうユニバーサル・カリキュラムの中の「自己へのケアリング」「仲間内でのケアリング」「見知らぬ者や遠い他者へのケアリング」「人工的世界へのケアリング」等々に関わる内容を含んでいることを指摘した。また西山(2011)は、保育者支援プログラムに焦点を当て、「人間関係」保育者効力感の向上を目指した、認知行動論的介入による支援プログラムを実施し、三木・桜井尺度を用いた分析から、全般的な保育者効力感の変化の有無について検証した。その結果、明確な効果は見出されなかったものの、現行の支援プログラムは、領域「人間関係」に関わる保育者効力感を向上させるために有効ではあるが、必ずしも一般的な保育者効力感をも向上させるものではないことを示唆した。

しかし、これらの先行研究は、実際の保育者養成校である短期大学等の「人間関係」の授業自体や指導法等を直接的に検討するものは少ない。また、具体的な「人間関係」の授業のテキストやシラバス等に対する言及も少ない。

そこで本稿では、保育士養成課程の改正後の、短期大学等における保育内容科目の領域「人間関係」の指導法について、他の「健康」「環境」「言葉」「表現」の各領域との違いも踏まえて、具体的なテキストの内容や担当者の専門性、シラバス、実際の授業方法、教材等を検討し、その現状を把握し、それらの特徴や改善点等を考察することを目的とする。

2. 領域「人間関係」のテキストと担当者の専門について

川俣他(2015)は、保育者養成校で使用されている「保育内容総論」のテキストの内容構成を紹介し、主に、保育の歴史や現代保育の課題まで包括的に扱っているものと、現場に即した、保育内容を深く扱っているものの2つに大別されることを指摘している。このことは、保育内容の領域「人間関係」のテキストの内容構成についても、同様である。そこで、上記のいわゆる【包括型】と【現場型】の、それぞれの具体的なテキストを取り上げ、その内容構成を確認・検討してみよう。

前者の代表例として、小田豊・奥野正義編 2009、『新保育ライブラリ 保育の内容・方法を考える 保育内容人間関係』北大路書房、がある。具体的な内容構成は、以下のとおりである。

第1章 現代社会と子どもの「人間関係」

- 1節 子どもを取り巻く環境としての「人間関係」、2節 人間関係の原点にもどる、3節 現代社会の人間関係の特徴、4節 子どもの人間関係をはぐくむ

第2章 領域「人間関係」の考え方

1節 領域「社会」から「人間関係」へ、2節 領域「人間関係」から「人間関係」へ、3節 幼児教育の新たな位置づけと保育所保育指針の領域「人間関係」

第3章 「人間関係」の新たな展開

1節 道徳性の芽ばえを培う、2節 子どもの人間関係を育てる園内の協力体制、3節 家庭での人間関係を支え、子どもの育ちを支える、4節 現代的な諸課題に対応した保育と人間関係

第4章 「人間関係」の発達とその課題

1節 発達とは、2節 乳幼児期の自己の発達、3節 乳児期の人間関係の特徴、4節 幼児期の人間関係の特徴、5節 乳幼児期の人間関係の発達における問題

第5章 あそびのなかで育つ「人間関係」

1節 あそびと人間関係、2節 人とかかわりの実際と子どもの育ち、3節 人とかかわりを育てる保育者の援助

第6章 保育者と子どもの「人間関係」

1節 乳幼児期の心理的安定の基盤としての保育者のかかわり、2節 幼児の仲間づくりと保育者のかかわり

第7章 「人間関係」でちょっと気になる子ども

1節 だれが、なぜ、気になるのか、2節 子どもの育っていくプロセスにおける”特別な配慮”、3節 関係性を意識し、見つめ直す

第8章 地域子育て支援にかかわる人間関係

1節 地域子育て支援とは何か、2節 人間関係の育ちを図る地域子育て支援、3節 これからの地域子育て支援―支援から協働へ

具体的な章・節からも分かるように、子どもの「人間関係」と保育内容の領域「人間関係」について、保育の歴史や背景、最新の学問的な知見も踏まえ、現在の状況に言及している。なお本書の「はじめに」の箇所でも、本書の特徴と構成として、以下の5点が示してある。

1. 新しい幼稚園教育要領と保育所保育指針における「人間関係」の意味
2. 最新の発達心理学に基づく子どもの「人間関係」の発達
3. 実践における具体的な問題
4. 地域子育て支援センターとしての役割と「人間関係」
5. もう一步先に進みたい方へ研究課題と推薦図書を用意

これに対し、後者の代表例として、成田朋子・小澤文雄・本間章子編 2009, 『保育実践を支える 人間関係』福村出版、がある。具体的な内容構成は、以下のとおりである。

第1章 子どもを取り巻く環境と人間関係

1節 地域社会と人間関係、2節 家庭と人間関係、3節 幼稚園・保育所等と人間関係

第2章 幼稚園教育要領・保育所保育指針と領域「人間関係」

1節 幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂（改定）、2節 幼稚園教育要領と領域「人間関係」、3節 保育所保育指針と領域「人間関係」

第3章 人とかかわる力の発達の基礎

1節 子どもの発達と人とかかわる力、2節 人とかかわる力の基礎、3節 親と子の絆、4節 子どもと保育者のかかわり、子ども同士のかかわり

第4章 人とかかわる力の発達の様相―発達を見通し、子どもの理解に繋げるために

1節 おおむね6カ月未満、2節 おおむね6カ月から1歳3カ月未満、3節 おおむね1歳3カ月から2歳未満、4

節 おおむね2歳、5節 おおむね3歳、6節 おおむね4歳、7節 おおむね5歳、8節 おおむね6歳
 第5章 保育の中で育つ人とかかわる力Ⅰ

1節 6カ月未満児の保育、2節 6カ月から1歳3カ月未満児の保育、3節 1歳3カ月から2歳未満児の保育、4節 2歳児の保育

第6章 保育の中で育つ人とかかわる力Ⅱ

1節 3歳児の保育、2節 4歳児の保育、3節 5歳児の保育

具体的な章・節から分かるのは、書名に書いてあるとおり、現場を意識した実践的な内容になっている点である。子どもの具体的な年齢や状況を提示して、その対応等について言及している。なお、同様に本書の「まえがき」の箇所を確認すると、本書の特徴と構成として、以下の様に説明してある。

「本テキストでは、まず、今日の子どもを取り巻く状況を整理すると共に、改訂幼稚園教育要領・改定保育所保育指針の領域「人間関係」を解説し、次いで、人とかかわる力の発達の基礎をおさえ、人とかかわる力がどのようにして育まれるのかを教育要領・保育指針の言葉から解きほぐし、さらに実際の保育場面での指導計画と実践事例を通して解説した」（*下線は引用者、以下同様）

当然、これら2種類のテキストの選択については、シラバスにおける授業の目標、担当教員の専門分野や立ち位置（研究者か実践者）に左右されることは言うまでもない。

担当教員の専門分野については、源ら（2014）が、保育者養成校の短期大学、大学を対象に、「保育内容の5領域各論」と「保育内容総論」担当教員が、研究者としてどのような専門分野をもっているのか、その実態を調査したものがあつた。その結果、「保育内容の5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）」と「保育内容総論」の担当教員の上位の主な専門は、以下の様に整理される。

- ・「健康」

体育・スポーツ等に関連する分野が40%、健康・保健・看護に関連する分野が15%、保育学・幼児教育学に関連する分野が11%であつた。

- ・「人間関係」

心理学に関連する分野が32%、保育学・幼児教育学に関連する分野が31%、教育学が10%であつた。

- ・「環境」

保育学・幼児教育学に関連する分野が32%、教科教育に関連する分野（理科教育学・数学科教育学・生活科教育学等）が13%、生態学・生物学等に関連する分野が11%であつた。

- ・「言葉」

保育学・幼児教育学に関連する分野が25%、心理学に関連する分野が13%、国語教育に関連する分野が12%、文学に関連する分野が11%であつた。

- ・「表現」

音楽表現に関連する分野が39%、造形表現に関連する分野が31%、身体表現に関連する分野が12%であつた。

- ・「保育内容総論」

保育学・幼児教育学に関連する分野が52%、教育学が9%であつた。

5領域の中で、「環境」と「言葉」は、保育者養成において中心的な科目である保育学・幼児教育学に関連する分野を専門とする者が主に担当しているのに対し、「健康」は体育・スポーツ等に関連する分野を専門とする者、「表現」は音楽表現や造形表現に関連する分野を専門とする者が、それぞれ主に担当していて、科目と

専門性の合致が見られる。「人間関係」は、心理学と保育学・幼児教育学に関連する分野を専門とする者が、主に担当していて、先の4つの領域の両方のタイプが混在していて、他の領域とは異なる特徴を示している。その理由として、保育内容の領域「人間関係」の科目であっても、当然、一般的な、いわゆる「人間関係」に言及する必要があることから、心理学を専門とする者が担当することも多いのであろう。

これらに対して、「保育内容総論」の担当教員は、「保育内容の5領域各論」担当の教員とは異なり、保育学・幼児教育学に関連する分野を専門とする者が過半数を占め、ここには示していないが、保育現場を経験した教員も「保育内容の5領域各論」担当の教員よりも多いことが明らかにされている。

3. 領域「人間関係」のシラバスについて

それでは、実際の保育者養成校の領域「人間関係」の具体的なシラバスをいくつか検討する。取り上げるシラバスは、大分県内の保育者養成校3校の平成28年度の事例である。大分県内を事例として選んだ理由は、筆者の前任校が大分県内の養成校で、筆者自身が「人間関係」を担当していたことと、大分県内の他の養成校の状況についても、ある程度の状況を把握しており、比較検討が容易であろうと考えたからである。

① A私立短期大学幼児教育学科、平成28年度「人間関係」のシラバスについて

表1 A短大の「人間関係」のシラバス

人間関係	2年・前期・必修	1単位 演習	関係資格：幼稚園教諭二種免許 保育士資格
【授業の到達目標】			
幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。乳幼児期における人とのかかわりの発達を踏まえ、幼稚園や保育所における人間関係の大切さや、保育者の援助について理解する。			
【授業の概要】			
具体的な事例を通して、乳幼児にとっての人とのかかわりの意味について、個人の考えをまとめたり、グループで討議する中で探っていく。			
【授業計画】			
第1回：保育の基本と人とのかかわり 「生きる力」の原点としての人間関係、人とのかかわりの基礎を育てるとは、領域「人間関係」と保育			
第2回：人とのかかわりと環境 「人間関係」にかかわる現代社会の状況			
第3回：乳幼児期の人とのかかわりの発達1 0歳から2歳代における人とのかかわりの発達			
第4回：乳幼児期の人とのかかわりの発達2 3歳以降における人とのかかわりの発達			
第5回：遊びと人とのかかわり1 遊びの意識と人とのかかわり、子どもの頃の遊び体験の振り返り			
第6回：遊びと人とのかかわり2 遊びの中での人とのかかわり			
第7回：人とのかかわりを育てる保育の実践1 人とかわれない、かわらない子どもたち、人とかわる力が育っていくプロセスとは			
第8回：人とのかかわりを育てる保育の実践2 保護者への対応を考える、子どもの気持ちに向き合うとは			
第9回：人とのかかわりを育てる保育者の役割1 とともに生活するモデルとしての役割、遊びの仲間としての保育者			
第10回：人とのかかわりを育てる保育者の役割2 子どもの理解者・援助者としての保育者、人間関係をどのように記録するか			
第11回：人とのかかわりが難しい子どもへの支援1 保育者が気になる行動とその理由、“気になる子”と見る保育者側の問題			
第12回：人とのかかわりが難しい子どもへの支援2 気になる子どもの受け止め方、気になる子どもの理解へ向けて			
第13回：園・家庭・地域の生活と人とのかかわり 子どもの成長に大切な家庭生活、日常生活における子どもと地域の人とのかかわり			

<p>第14回：領域「人間関係」をめぐる諸問題 自我の育ちと自己抑制、社会化と個性化、自由と管理、依存と自立、個人としての自立と集団としての自立</p> <p>第15回：コミュニケーションスキル ゲームを通して対人関係のスキルを体験</p>
<p>【テキスト】</p> <p>森上史朗他編『最新保育講座⑤ 保育内容「人間関係」』ミネルヴァ書房</p>
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>「幼稚園教育要領解説」、「保育所保育指針解説書」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」</p>
<p>【成績評価の方法】</p> <p>筆記試験 (50%)、レポート課題 (50%)</p> <p>*筆記試験は、人とのかかわりが育つための基本理解、保育者の役割についての考えを問う</p>

表1は、A私立短期大学幼児教育学科（以下、A短大と略記）の「人間関係」のシラバスである（*筆者が、A短大のホームページ上に記載があるシラバスを一部補足修正して作成、以下の表も同様）。平成28年度の「人間関係」の講義についてだが、講義担当者の専門は、幼児教育学・児童学であり、元公立幼稚園の教員である。

先ず開講の時期についてだが、2年の前期になっている。A短大は、1年の前期に全体的な科目である「保育内容総論」を先に履修することになっているので、今回の保育士養成課程の改正内容に依拠していることが分かる。

授業の到達目標については、幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「人間関係」のねらいと内容を理解することと、幼稚園や保育所の現場においての人間関係を理解することと、としている。

授業の概要については、具体的な事例を通して考えをまとめ、グループ討議を行うとあり、実践例を検討することで、領域「人間関係」を理解させようとする授業であることが分かる。

使用しているテキストは、先に説明した【現場型】の実践的なものであり、参考書も、「幼稚園教育要領解説」、「保育所保育指針解説書」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」と保育現場を意識したものである。これらのことは、担当者が元公立の幼稚園の教員であるということとも関係があるだろう。

成績評価については、筆記試験とレポート課題の割合が同じ50%であることと、筆記試験の内容も、知識を問うものだけでなく、学生の考えを問うものもあることから、A短大では、領域「人間関係」を保育現場の実践に即した形で、かつ具体的な子どもの年齢や状況に応じた内容で、分かりやすく指導しようとしていることが確認できる。

なお参考までに、A短大は大分県北部の都市に、仏教系私立短期大学として昭和43年に設立された。幼児教育学科の入学定員は現在50人である。取得可能な資格は、保育士資格と幼稚園教諭二種免許が中心で、ほとんどの学生がこの2つの資格・免許を取って卒業する。A短大の建学の精神は、大乘仏教の精神、特に親鸞聖人が顕かにされた「浄土真宗の精神」を基本としている。そのため、単に知識教育にとどまることなく、宗教的情操教育に根ざした豊かな人格形成に主眼を置く、少人数制のきめ細かい指導で、「人間教育」・「心の教育」を実践してきている。

② B私立短期大学幼児教育学科、平成28年度「保育指導法・人間関係Ⅰ」「保育指導法・人間関係Ⅱ」のシラバスについて

表2-1 B短大の「保育指導法・人間関係Ⅰ」のシラバス（前期）

保育指導法・人間関係Ⅰ	2年・前期・必修	1単位 演習	関係資格：幼稚園教諭二種免許 保育士資格
<p>【授業の到達目標】</p> <p>『人間関係』とは何か?について領域「人間関係」のテキストを元にひも解いていく。その中で、幼児と保護者あるいは保育者の人間関係がどのように成立していくかについて、講義内での討議をもとに深めていき、受講生各々が幼児の各年齢段階における人間関係の成立について、多角的に学びを深めていく。また子どもの発達の特徴や社会性の発達について学び、理解を深めていくことを目標とする。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>「教育免許状取得のための必修科目」「教職に関する科目」（教育指導法に関する科目）保育内容指導法」「保育士 資格取得のための（系列：保育の内容・方法）に関する科目。主に講義と視聴DVDによる討議を行う。講義では、テキストのテーマ毎に進めていきながら、適宜資料を配布する。さらに、参考となる視聴DVD等を使い、討議を行い、課題レポートを作成等も行う。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：オリエンテーション、「人間関係」とは何か?～領域「人間関係」について</p> <p>第2回：人とのかかわりを培う保育の基本：保育者と子どもの関係性とは?</p> <p>第3回：育ちに応じたかかわりと支援</p> <p>第4回：0歳児の発達の特徴と保育者との関係について</p> <p>第5回：1歳児～3歳児の発達の特徴と保育者との関係について</p> <p>第6回：1歳児～3歳児の発達の特徴と保護者との関係について</p> <p>第7回：子どもの社会―視聴DVD</p> <p>第8回：4歳児～就学前の発達の特徴と関係性：保育者との関係について</p> <p>第9回：4歳児～就学前の発達の特徴と関係性：保護者との関係について</p> <p>第10回：幼児の生きる力を促す援助の基本について：その理論と方法</p> <p>第11回：課題を抱えた子どもとその保護者の理解と援助：理論[発達しょうがい等について]</p> <p>第12回：課題を抱えた子どもとその保護者の理解と援助：方法と事例検討</p> <p>第13回：保護者との関係づくりと地域とその連携：他機関との関わり</p> <p>第14回：保護者との関係づくりと地域とその連携：高齢者との関わり</p> <p>第15回：まとめ</p>			
<p>【テキスト】</p> <p>寺見陽子『子どもの心の育ちと人間関係-事例と図解で学ぶ保育実践』保育出版社</p>			
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>「幼稚園教育要領解説」、「保育所保育指針解説書」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>テスト60%、課題・授業態度40%</p>			

表2-1は、B私立短期大学幼児教育学科（以下、B短大と略記）の「保育指導法・人間関係Ⅰ」のシラバスである。平成28年度の「人間関係」の講義についてだが、B短大では、「人間関係」に該当する科目が「保育指導法・人間関係Ⅰ」と「保育指導法・人間関係Ⅱ」の2つになる。講義担当者の専門は、福祉・保育であり、現場との繋がりが深い教員である。

先ず開講の時期についてだが、2年の前期になっており、この後に示す2年の後期科目である「保育指導法・人間関係Ⅱ」と併せて、B短大では、「人間関係」に該当する科目は、実質、2年の通年科目であることがわか

る。

授業の到達目標については、領域「人間関係」の理解を、幼児と保護者、幼児と保育者の人間関係の成立を中心に学んで行くこと、としている。

授業の概要については、講義とDVDの視聴を中心に、討議を行い、課題レポートを作成する演習形式の授業であることが分かる。

使用しているテキストは、A短大と同様に【現場型】の実践的なものであり、参考書も、「幼稚園教育要領解説」、「保育所保育指針解説書」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」と、全く同様の保育現場を意識したものである。やはり、担当者が、現場との繋がりが深い教員であるという関係があるだろう。

成績評価については、筆記試験を中心にレポート課題と授業態度から評価を行う、オーソドックス形式であることが分かる。

表 2-2 B短大の「保育指導法・人間関係Ⅱ」のシラバス (後期)

保育指導法・人間関係Ⅱ	2年・後期・必修	1単位 演習	関係資格：幼稚園教諭二種免許 保育士資格
<p>【授業の到達目標】</p> <p>領域「人間関係Ⅰ」をさらに進化し深めることを目的とする。主に、保育者と子ども・保護者との関係の成立、さらに保育実践における関係性のアセスメントおよびプランニング、そして多職種間などのカンファレンスの持ち方について学習し、知識習得と実践力を養うことを目的とする。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>領域「人間関係」に関連する保育実践例を数多く取り上げ、その中での保育者の関係性のとり方や、保育者としての保育理論および方法論を同時に学ぶことができるように配慮する。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：オリエンテーション (実践例を学ぶ意味)</p> <p>第2回：実践検討①統合保育における人間関係の実践</p> <p>第3回：実践検討②統合保育以外における人間関係の実践</p> <p>第4回：遊び・文化的活動における人間関係の実践について：保育者との関係</p> <p>第5回：遊び・文化的活動における人間関係の実践について：保護者との関係</p> <p>第6回：困った子への関わりの実践①障がいを抱えた子どもへの関わり</p> <p>第7回：困った子への関わりの実践②課題を抱える子どもへの関わり</p> <p>第8回：行事での指導と人間関係</p> <p>第9回：個人への指導と子ども集団への指導</p> <p>第10回：個と集団の関係性について</p> <p>第11回：班活動への指導</p> <p>第12回：リーダーへの指導</p> <p>第13回：直接的指導と間接的指導について：クラスでの活動</p> <p>第14回：直接的指導と間接的指導について：学外での活動</p> <p>第15回：総合学習 (まとめ)</p>			
<p>【テキスト】</p> <p>森上史朗・小林紀子・渡辺英則編『保育内容「人間関係」』ミネルヴェ書房</p>			

<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>「幼稚園教育要領解説」、「保育所保育指針解説書」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」</p>
<p>【成績評価の方法】</p> <p>テスト 60%、課題・授業態度 20%、討議参加（積極性） 20%</p>

これに対して、表2-2は、「保育指導法・人間関係Ⅱ」で、「保育指導法・人間関係Ⅰ」と同じ担当者が、引き続き後期に行う科目である。

授業の到達目標については、「保育指導法・人間関係Ⅰ」をさらに進めて、保育者と子ども・保護者との関係の成立、保育実践における関係性のアセスメントおよびプランニング等の、知識習得と実践力を養うことを目的としている。

授業の概要については、領域「人間関係」に関連する保育実践例を数多く取り上げる、とあり、多くの実践例を通して、保育の方法論を学ぶことが中心になっていることが分かる。

使用しているテキストは、「保育指導法・人間関係Ⅰ」とは異なるが、同様に【現場型】の実践的なものであり、参考書は同じものである。「保育指導法・人間関係Ⅰ」「保育指導法・人間関係Ⅱ」を通して、より実践的に、領域「人間関係」を身に付けさせようとする意図が伺える。

成績評価については、討議参加（積極性）20%を加えることで、いわゆるアクティブ・ラーニングを重視していることが分かる。

参考として、A短大と同様に、B短大の概要と特徴を簡単に示しておく。B短大は、大分県中部の都市に、昭和43年に設立された。幼児教育学科の入学定員は現在70人である。取得可能な資格は、保育士資格と幼稚園教諭二種免許が中心で、A短大と同様に、ほとんどの学生がこの2つの資格・免許を取って卒業する。B短大の建学の精神は、「自立・自活できる人材の育成」である。また、専門教育・実務能力の向上と同様に、人格教育についても重視している。

③ C私立大学短期大学部初等教育科・保育科、平成28年度「人間関係」のシラバスについて

(1) C私立大学短期大学部初等教育科、平成28年度「人間関係」のシラバスについて

表3-1 C短大・初等教育科の「人間関係」のシラバス

人間関係	1年・後期・必修	1単位 演習	関係資格：幼稚園教諭二種免許 保育士資格
<p>【授業の到達目標】</p> <p>領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取り扱いを説明することができる。乳幼児の人とのかかわりの発達について説明することができる。具体的場面での乳幼児の言動の背景や心理的側面を説明することができる。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>乳幼児期に人とかかわる力がどのような場面で、どのように育つのかを理解し、保育者の役割について考え、具体的場面での援助について考察する。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：保育の基本と人とかかわり</p> <p>第2回：領域「人間関係」のねらいと内容</p>			

第3回：乳幼児期における人とのかかわりの発達 0歳～2歳 第4回：乳幼児期における人とのかかわりの発達 3歳～ 第5回：人とのかかわりと遊び 第6回：遊びのなかでの人とのかかわり 第7回：人とのかかわりを育てる保育の実践 第8回：保護者の対応～ロールプレイを使って考える～ 第9回：人とのかかわりを育てる保育者の役割 第10回：人とのかかわりが難しい子どもへの支援 第11回：人とのかかわりが難しい子どもへの支援～保護者を支える～ 第12回：さまざまな連携 第13回：園、家庭、地域の生活と人とのかかわり 第14回：領域「人間関係」をめぐる諸問題 第15回：まとめ
【テキスト】 森上史朗・小林紀子・渡辺英則編『保育内容「人間関係」』ミネルヴァ書房
【参考書・参考資料等】 「幼稚園教育要領解説」、「保育所保育指針解説書」
【成績評価の方法】 授業への取り組み姿勢20%、中間・期末レポート30%、期末テスト50%で評価。

表3-1は、C私立大学短期大学部（以下、C短大と略記）初等教育科の「人間関係」のシラバスである。先のA短大、B短大とは異なり、開講の時期は、1年の後期である。保育内容の各領域の科目を1年次に履修し、その後2年次に、保育内容総論の科目を履修する。この流れは、この後説明する、C短大の保育科も同じである。平成28年度の「人間関係」の講義についてだが、C短大初等教育科の講義担当者は、現場の保育士経験者で、外国の保育園勤務経験者でもある。

授業の到達目標については、領域「人間関係」の基本的な理解が中心であり、具体的な実践場面も想定していることが分かる。

授業の概要については、具体的な実践場面での領域「人間関係」の理解を、事例を通して学ぶ内容になっている。

使用しているテキストは、先のB短大の「保育指導法・人間関係Ⅱ」と同様の、【現場型】の実践的なものであり、参考書もほぼ同じものである。B短大と同様に、より実践的に、領域「人間関係」を身に付けさせようとする意図が伺える。

成績評価については、筆記試験を中心にレポート課題2つと、授業への取り組み姿勢から評価を行う形式で、学生の積極的な授業参加を求めていることが分かる。

参考として、C短大初等教育科・保育科は、大分県中部の都市に、それぞれ昭和37年、平成16年に設立された。入学定員は現在、初等教育科150人、保育科60人である³⁾。初等教育科は、小学校・幼稚園コースと保育・幼稚園コースに分かれ、保育科は、そのカリキュラムにおいて、初等教育科の保育・幼稚園コースと多くの部分で重複する。取得可能な資格は、初等教育科は、小学校教諭二種免許・幼稚園教諭二種免許・保育士資格が中心で、保育科は、保育士資格と幼稚園教諭二種免許が中心である。C短大の建学の精神は、「真理はわれらを自由にする」である。目標とする人間像は、「真理を探究し自由を愛する姿勢を持ち、高い専門能力と広い

教養を身につけ、豊かな人間愛・地域愛を備え、進んで社会に貢献しようとする人間」で、この人間像を目指して教育目標を明確に掲げ、学生の学びの視点に立って、温かな人間関係をベースに、一人一人を大切に丁寧な指導を行っている。

(2) C私立大学短期大学部保育科、平成28年度「人間関係」のシラバスについて

表3-2 C短大・保育科の「人間関係」のシラバス

人間関係	1年・前期・必修	1単位 演習	関係資格：幼稚園教諭二種免許 保育士資格
<p>【授業の到達目標】</p> <p>乳幼児期における集団生活の意義について理解し、説明できるようになる。子どもたちの人とのかかわる力を育むための支援について考え、説明できるようになる。</p>			
<p>【授業の概要】</p> <p>本科目は、その他保育内容との関連性を踏まえて行うものである。事例等を通して乳幼児期における集団生活の意義や、人とのかかわる力を育む背景となる人間関係について理解する。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>第1回：領域「人間関係」とは</p> <p>第2回：自分を取り巻く「人間関係」について</p> <p>第3回：保育の基本と人とのかかわり</p> <p>第4回：乳幼児期における人とのかかわりの発達</p> <p>第5回：遊びの中で育つ人とのかかわり</p> <p>第6回：領域「人間関係」からみた遊びの指導について</p> <p>第7回：事例からみる人とのかかわりを育てる保育の実践Ⅰ</p> <p>第8回：事例からみる人とのかかわりを育てる保育の実践Ⅱ</p> <p>第9回：人とのかかわりを育てる保育者の役割</p> <p>第10回：他の領域との関連性について</p> <p>第11回：人とのかかわりが難しい子どもへの支援</p> <p>第12回：園、家庭、地域の生活と人とのかかわりⅠ</p> <p>第13回：園、家庭、地域の生活と人とのかかわりⅡ</p> <p>第14回：領域「人間関係」から考える保育のあり方について</p> <p>第15回：領域「人間関係」をめぐる諸問題</p>			
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを配布。</p>			
<p>【参考書・参考資料等】</p> <p>「幼稚園教育要領解説」、「保育所保育指針解説書」</p>			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>期末試験 50%、課題提出 30%、小レポート 10%、授業への取り組み 10%で評価。</p>			

表3-2は、C短大保育科の「人間関係」のシラバスである。開講の時期は、先に指摘した通り、1年の前期で、初等教育科と同様に、1年次に保育原理と保育内容の各論を学んでから、2年次で保育内容総論を履修することになっている。平成28年度の「人間関係」の講義についてだが、C短大保育科の講義担当者の専門は、幼児教育学である。

授業の到達目標については、乳幼児期における集団生活の意義について理解し、説明できるようになる。子どもたちの人とかかわる力を育むための支援について考え、説明できるようになる、とあり、領域「人間関係」の基本的な理解と実践における支援が中心であることが分かる。

授業の概要については、先の初等教育科と同様に、具体的な実践場面での領域「人間関係」の理解を、事例を通して学ぶ内容が中心になっている。

使用しているテキストは無く、配布プリントを中心に、様々な実践事例を取り上げて説明し、参考書は先の初等教育科と同じ「幼稚園教育要領解説」と「保育所保育指針解説書」である。

成績評価については、筆記試験を中心に課題と小レポート、授業への取り組み等から評価を行う形式で、先の初等教育科に比べて、課題と小レポートの割合が少し高いことが特徴的であるといえる。

4. まとめと今後の課題

保育士養成課程の改正後の、短期大学等における保育内容科目の領域「人間関係」の指導法について、大分県の保育者養成校の事例を対象として、他の「健康」「環境」「言葉」「表現」の各領域との違いも踏まえて、具体的なテキストの内容や担当者の専門性、シラバス、実際の授業方法、教材等を検討した結果、主に以下の3点が明らかになった。

1. 領域「人間関係」の開講時期（1年次か2年次か、前期か後期か）や長さ（半期か通年か）は、各養成校によって異なるが、その授業概要や計画の方向性としては、大きな違いはなく、どの学校も実践を意識したものである。
2. 領域「人間関係」の担当者の専門性は、先行研究の全国調査の結果とは異なり、心理学を専門とする者は皆無で、元幼稚園教諭、元保育士、福祉・保育系教員、幼児教育学系教員と、各養成校によって違いが見られる。
3. 領域「人間関係」の授業において、テキストを使用している学校は、すべて【現場型】の実践的なものを使用していて、その授業内容も現場に即した実践的なものである。

今後の課題として、より多くの養成校の領域「人間関係」の指導法について、具体的なシラバスや授業内容・方法などを比較検討する必要があるだろう。また、担当者の専門性や最新の領域「人間関係」テキストの内容の検討も行う必要があるだろう。

註

- 1) 保育士養成課程等検討会 平成22年3月24日「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）」。
- 2) 渡辺一弘 2016, 1-3頁。
- 3) 保育科は、今年度の入学生で廃止となり、来年度から初等教育科（定員200人）に統合されることになった。

引用・参考文献

- 赤堀方哉 2007, 「保育者養成校における領域「人間関係」の指導法としてのロールプレイの可能性」『梅光学院大学論集』第40号 27-37頁。
- 小田豊・奥野正義編 2009, 『新保育ライブラリ 保育の内容・方法を考える 保育内容人間関係』北大路書房。
- 学校法人扇城学園東九州短期大学 2016

<http://www.higashikyusyu.ac.jp/>

川俣沙織・川俣美砂子・永渕美香子・圓入智仁・増田隆・那須信樹 2015, 「「保育内容総論」運営上の課題に関する研究」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』第47号 217-222頁。

中野啓明 2009, 「「人間関係」領域におけるケアリング」『新潟青陵学会誌』第1巻1号（創刊号） 19-29頁。

成田朋子・小澤文雄・本間章子編 2009, 『保育実践を支える 人間関係』福村出版。

西山修 2011, 「領域「人間関係」に関わる保育者支援プログラムの検討―保育者効力感について―」『幼児教育研究年報』第33巻 広島大学大学院教育学研究科附属幼年教育研究施設 89-96頁。

別府大学・別府大学短期大学部 2016

<http://www.beppu-u.ac.jp/>

別府溝部学園短期大学 2016

<http://www.mizobe.ac.jp/>

源証香・小谷宣路 2014, 「「保育内容」研究のあり方に関する一考察―保育者養成校における担当教員の専門分野の実態調査から―」『埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』Vol. 13. 9-15頁。

横山文樹 2008, 「幼稚園における子どもの「人とのかかわり」に関する考察（1）―領域「人間関係」の意義と課題の追求―」『学苑』昭和女子大学初等教育学科・子ども教育学科紀要 No. 812 27-46頁。

渡辺一弘 2016, 「「保育内容総論」の指導法についての検討―大分県の保育者養成校の事例を中心に―」『幼児教育研究』第2号 会津大学短期大学部社会福祉学科・幼児教育学科 1-13頁。

